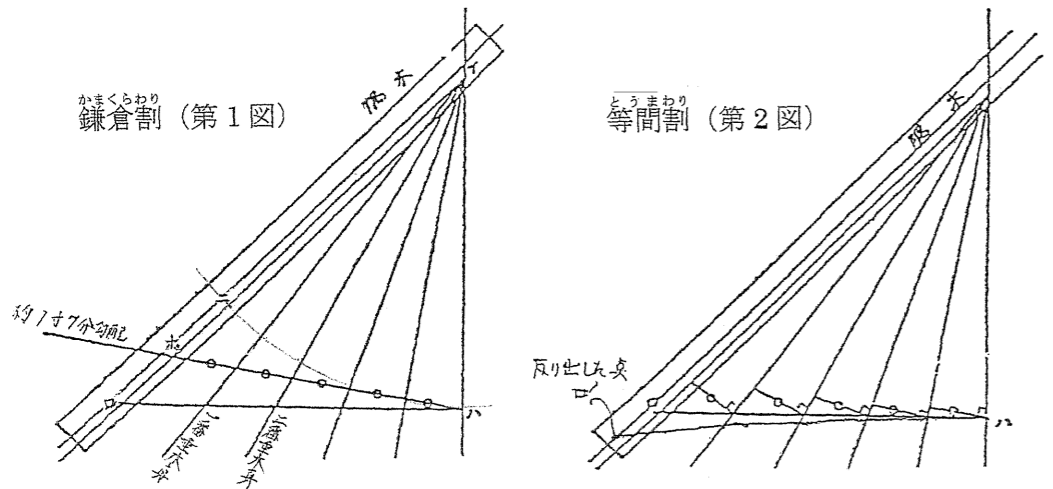


扇垂木

扇垂木の木拵えには二つの手法があり、1・垂木の側面が垂直になるように作られたもの（即ち垂木にカユミをとったもの）と、2・垂木の側面が傾いたもの（即ち垂木にカユミをとらないもの）があるが、一般的には1・で、垂木の側面は垂直になるように作られている。また、垂木の配り方にも幾つかの手法があり、1・振分から隅まで全部の垂木を振らすもの、2・振分部に一本もしくは若干数の指垂木（軒に直角な垂木）があるもの、3・隅部だけを振らすもの、等々がある。そして、振れ垂木の中心線が集合する点・要（龍頭ともいう）が一箇所である場合と、その要を数箇所に設けて振らせるものもある。



扇垂木の割付け方も数種類あるが、普通には鎌倉割（第1図）、等間割（第2図）と呼ばれる手法が多く用いられているようである。

鎌倉割は、隅木幅の半分（凡そ垂木幅ほど）の中心線と振れ端の指垂木の中心線の交点「イ」を求めてこれを「要」とし、次に、平の軒の出を桁に平行な線で引き、先の隅木および指垂木中心線との交点を「ロ」「ハ」とする。次に、平の地の間（軒の出）「イハ」を隅の地の間「イロ」の線上にとって「ニ」とし、残り「ニロ」を二等分して「ホ」を求め、その点と「ハ」を結んだ線「ホハ」を振垂木の数で等分し、それぞれの点と「イ」を結んで各垂木の中心線を求める。このとき「ホハ」の線が軒の線「ロハ」に対して約一寸七分勾配になるので、これを「一寸七分の戻り矩の割」とも呼んでいる。

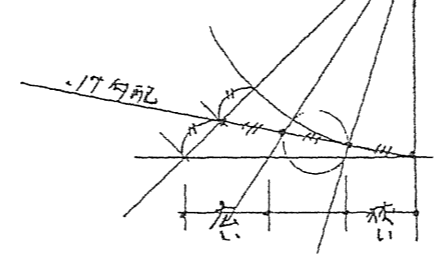
等間割は、第2図で示すように「ロハ」の間を垂木の振れに直角に等間隔に割り、これを「要」と結んで振垂木の中心線としたものであるが、また、これには1・軒の線を「ロハ」として割るもの、即ち桁に平行線上で割り付けるものと、2・軒の反り上がり投げ線上で割るもの、即ち軒によりよく添う意味で反り出した軒「ロハ」の曲線上に割り付けるものとの区別がある。

垂木の側面を傾けて作っているものは、概ね隅の若干の垂木を振れさす程度で、「要」の位置からいけば、隅柱真ぐらいか、それ以内でも入側柱真あたりまでに置くと考えてよい。

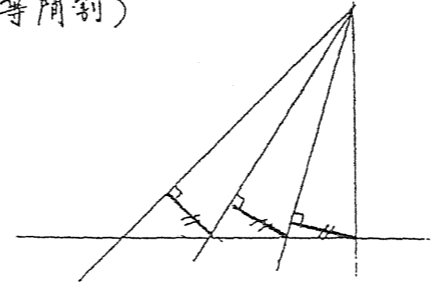
（扇垂木）

- ・ 重木割の一種
- ・ 重木を放射状に配る配置法のこと、したがって配付重木はない。
- ・ 形式上の分類
 - ・ すべての重木を放射状に配置するもの
 - ・ 一部に指垂木を置いて残りの重木を放射状に配置するもの
 - ・ 大部分の重木を指垂木とし、隅の一部を放射状に配置するもの
- ・ 規矩上の分類
 - ・ 振れ重木に歪をとったもの
 - ・ 重木断面が矩形で歪をとらないもの
- ・ 重木割付け上の分類

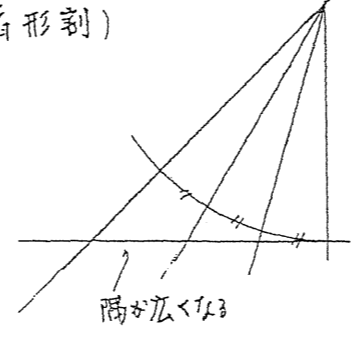
（鎌倉割）



（等間割）



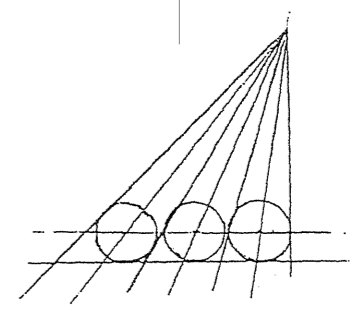
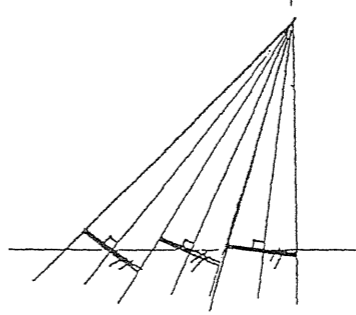
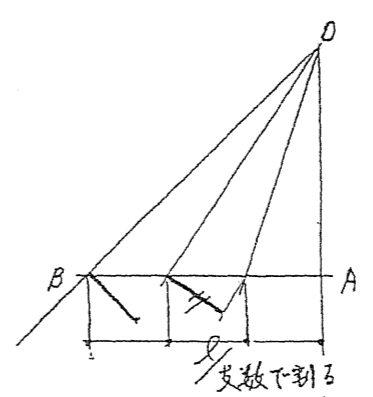
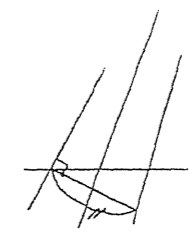
（扇形割）



イ 扇重木の割付け

おきけわり 扇形割 (江戸割)

小林源蔵「隅矩雛形」 1852年 浅草寺根梁 鈴木河内が伝えたものである



※ 京都 玉鳳院 開山堂 (永享 文母 1429~1449) 中世の扇垂木

- ・ 隅扇
- ・ 要（龍頭）がない
- ・ 地・飛の重木振れが折れている

（堂木の振れ）

